

## 自ら学びたいという気持ち ～大震災直後の福島で見たことから～

皆さんには、年度当初、入学式や始業式で、論語の一文を紹介したことを覚えていますか？

「憤せざれば啓せず。悱せざれば発せず。一隅を挙ぐるに、三隅を以て反さざれば、則ち復たひせざるなり」という一文でした。繰り返しとなるので、細かな解説はしませんが、「自ら学びたいという気持ち」の大切さを説いた言葉です。「主体的な学び」の姿勢と、自らの意欲で学び自ら導き出した答は、確実に皆さんの力となります。そのような学びの姿勢を意識して過ごせたでしょうか？ 意識できていた人も、できてなかったという人も、新しい学年を前に、学びに向かう自らの姿勢を問い直してほしいと思います。

気がついた人も多いと思いますが、自転車置き場の倒れていた屋根が撤去されました。去年9月の台風被害の復旧にようやく予算が付いて動き始めました。新しい屋根ができるのは、まだ少し先になりますが、もう少し辛抱してほしいと思います。

その台風の他にも、地震や大雨など、今年度は自然災害の大変多い年でした。災害はいつ、どこで、誰にでも起こりうるものです。そんな中で忘れていけないのは、東日本大震災だろうと思います。先週の土曜日、3月11日は東日本大震災から8年の日でした。震災は、皆さんが小学校2年生・3年生のときのことです。ひょっとしたら、皆さんはテレビ等で見た震災の様子を覚えている最後の世代かも知れません。

3月11日前後には震災から8年の特集がテレビなどで多く報道されましたが、震災の頃の私の経験を伝えておきたいと思います。

私は、8年前の4月、地震から1ヶ月あまりの時に、京都府からの教育支援で1週間、福島へ行きました。私が滞在したのは会津若松市で、福島県の中では内陸部の町です。海岸部とは、京都で言えば宇治市と日本海ぐらい離れています。津波はもちろん、地震の被害もほとんどないところで、津波や原発事故で避難してきた人をたくさん受け入れていました。それでも、滞在している1週間には、余震を何度も経験しました。

私が行ったのは、京都府からの教育支援の最初の隊で、どんな支援ができるかを確認するのが主な任務だったので、福島県内のいろんなところへ行きました。

いわき市という町へ行ったときは、海岸部の方へ近づくにつれて、地震で壊れた建物が増え始め、ある地点を越えると、言い換えれば津波が到達した地点に達すると、瓦礫が散乱していました。小名浜という港にはたくさんの船が陸の上に打ち上げられていました。

沿岸部の道路を走っていて「いわき海星高校」という高校の看板が目に入りました。海に面していて津波の直撃を受けた学校でした。いわき海星高校は津波被害の無かった近隣の高校を間借

りして授業をしていたので、学校は無人でした。校内の様子を見させてもらいました。教室や体育館の床は一面泥に覆われ、校内には、サッカーボールやボール籠、スポーツドリンクの容器などが泥から顔をのぞかせ、日常の高校生活が一瞬に奪われたことが分かる光景でした。被災地の光景はどれも非日常の世界でしたが、教員という立場から、学校というところ、生徒がいて勉強したり、部活動したりしていた場所が、人一人いなくて泥に覆われている様は最もショッキングな光景でした。いわき海星高校は水産科の高校で、間借りされていた学校では潜水などの実習が出来ません。この状況の報告から、震災の翌年に、いわき海星高校の実習を京都の海洋高校で行うという支援につながりました。

避難所もいくつか訪問しました。津波に流された家族を探す写真付きのビラが、たくさん貼られていました。温泉のホテルが避難所になっているところもあり、避難してきた小学生が、大浴場の前のテーブルで一人勉強している光景が目には焼き付いています。

避難所では、皆さんが、秩序を保ちながら、助け合って生活をしていました。あのときの日本全体を包んでいた大きく重い雰囲気は、もうなくなってしまいました。先ほど言っていたいわき海星高校も、今は平常の教育活動をされています。しかし、このあいだの3月11日前後のいろいろな報道であったとおり、以前の日常を取り戻せていない人がまだたくさんいます。震災は終わっていないことをあらためて実感しました。

最後に、もう一つ、8年前に見たことを紹介します。私が滞在した会津若松の町では、閉校になった学校の校舎に、大熊町という町が町ごと避難してきていました。校舎の中に市役所から学校まで入っていました。私が行ったときは4月の下旬でしたが、ちょうど避難してきた中学生が、震災後初めて授業を再開する日でした。生徒と先生が、ふるさとから離れた避難先の会津若松で集まり、不十分ながら場所を確保して授業が再開されました。そのときの様子は忘れられません。制服はなく、皆、私服、教科書もありません。でも、生徒も先生も本当にうれしそうでした。仲間と一緒に勉強出来る、勉強したいという生徒の気持ち、目の前の生徒に授業をしたいという先生の気持ちが熱く伝わってきました。

今、皆さんは、自宅から制服を着て通学し、ホームルーム教室でクラスメイトと机を並べて勉強し、放課後には部活動をする。先生も、職員室を出て授業に行けば、教室でクラス全員の顔を見ることができる。当たり前と思っていたことが、実は大変貴重なことだと気づきました。皆さんの今の環境は、自分の意思で、自分のために勉強することが出来る、そんな恵まれた環境です。先に言った「自ら学びたいという気持ち」を大切にしてほしいと思います。